



富山のイノベーター

10

ボードゲーム総合企業として 世界と日本をつなぐハブに

文・江口絵理 撮影・柴佳安

株式会社 Engames 代表取締役社長
杉木貴文氏

コロナ禍に人気急上昇

扉を開けると、店は思いのほか奥へと広く続いていた。壁を天井から足元まで覆う棚には、ボードゲームのケースが図書館の本のように整然と並ぶ。その数は1500ほど。

「ボードゲームの新作は世界で年に3000～4000タイトルは出ています。意外に大きな業界なんですよ」

ボードゲームで遊べるカフェとゲーム販売の店「Engames(エンゲームズ)」を立ち上げた杉木貴文さんはそう教えてくれた。

ボードの実物をテーブルに広げ、人と人が頭を寄せ合って遊ぶボードゲームは、外に一歩も出ることなく世界中のプレイヤーと遊べるオンラインゲーム全盛のこの時代には不利かと思いきや、家で過ごす時間が増えたコロナ禍に人気急上昇し、むしろ裾野は広がったという。

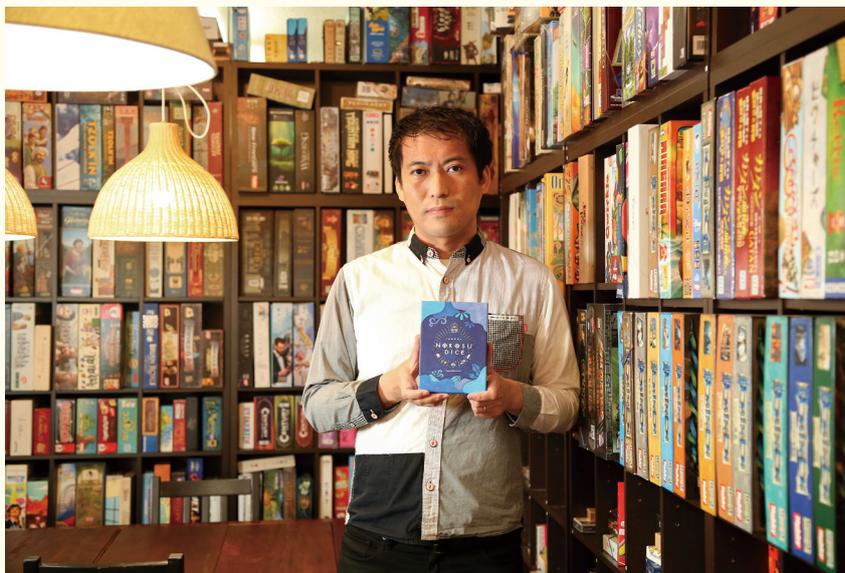
ボードゲームといえばオセロやモノポリーなどが思い浮かぶが、Engamesで扱うのはゲーム作者の個性が特徴の「ユーロゲーム」と呼ばれるジャンル。市場の中心は欧米だが日本の愛好家も多く、国内の市場規模は70億円に上る。

自社のゲームが世界50カ国に

富山生まれの杉木さんがボードゲームに出合ったのは中学3年生のとき。思考を要するゲームの面白さへのめりこみ、東京で大学に通い始めてからは、勉学のかたわら、世界大会に出るほどの腕前になった。

大学院修了後はインテックで営業職についたが、いずれは富山で実家のお寺を継ぐことを決めていた。

「住職と両立できる仕事を考え始め



富山県富山市生まれ。学生時代に『マジック：ザ・ギャザリング』に出会い、富山高校、慶應義塾大学、東京工業大学大学院を経てインテックへ入社。2017年に退社後Engamesを創業。浄土真宗本願寺派僧侶
<https://www.engames-s.com/>

たころ、YouTubeやニコニコ動画で人々がボードゲームの楽しさを発信するようになり、芸能人の方も加わって、ボードゲーム界が盛り上がり始めました。そこで、会社を退職してボードゲームの会社を立ち上げたくです」

ネットで買うこともできるゲームをあえて実店舗で販売し始めたことにも明確な理由がある。「ボードゲームはタイトル数が膨大なので、買う人とゲームのミスマッチが起きやすいんです。どんな人と、どういう場所で、どれぐらいの時間、どんな楽しみを求めて買うのか。店頭でちゃんと聞きして、ニーズに合ったゲームをおすすめし、ミスマッチを減らすことが富山にボードゲーム文化を広げていくためにも必要なことだと思って」

その後、海外のメーカーと輸入代理店契約を結んで国内の小売店に卸したり、海外のゲームの日本語版の出版と販売も手がけたりと、事業を着々

と広げてきた。2019年には、富山のゲーム作家と組んで作った自社オリジナルのゲーム『ノコスダイス』の販売をスタート。

「海外展開も成功し、来年には世界50～60カ国で販売が始まります」

カフェと物販の1店舗から始まった同社はいまや、「ボードゲームの総合企業」へと変身をとげようとしている。

「近年では、業界を代表するような企業が地方に生まれにくくなっていますが、私は富山で、Engamesを国内有数のボードゲーム会社にするだけでなく、世界と日本をつなぐハブのような会社に成長させていきたいと思っています。国内同業他社を巻き込んで、物流の共同化も実現したいですね」

数年後には住職を継ぎ、二足のわらじとなる。富山に誕生した異色のボードゲーム会社は、ますます独自の地位を築いていくに違いない。